

# シンポジウムの概要

関連記事 3~8、13~15ページ

## 異分野融合から切り拓く 翻訳後修飾研究の新展開

オーガナイザー

伊藤昭博(東京薬大生命)  
上原孝(岡山大院医歯薬)

翻訳後修飾は、翻訳後に起こる蛋白質の化学的な修飾である。翻訳後修飾には、アセチル化やメチル化などの化学修飾や、ユビキチン化などの蛋白質修飾があり、標的蛋白質の活性、安定性、細胞内局在などの調節を介して、生命の根幹となる様々な生命現象に関与する。

一方、これら翻訳後修飾の異常による蛋白質機能不全は、癌などの疾患の原因となるため、その全貌の解明は疾患治療の観点からも重要である。

蛋白質の翻訳後修飾は、生体内化学反応を介して標的蛋白質に修飾するため、翻訳後修飾を理解するためには、生物のみでなく化学などの異分野の力が必要となる。すなわち、翻訳後修飾を見るためには分析化学の力が、探り、操るためには合成化学の力が必要である。

本シンポジウムでは、生物、合成化学、分析化学の各々の分野で翻訳後修飾研究の第一線で活躍する先生方にご講演いただき、翻訳後修飾に関する最新の話題を提供していただくと共に、翻訳後修飾をキーワードに異分野連携の重要性を議論したい。

(伊藤昭博)

## 国際交流シンポジウム

### FIPフォーラムーCOVID-19パンデミックに対する薬学関係者の国際協力

オーガナイザー

加藤大(昭和大薬)  
入村達郎(順天堂大)  
熊本卓哉(広島大院医系科学)

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対峙するに当たって、医薬品の開発と適正な使用に関わる薬学関係者は過去1年間大きな貢献をしてきた。今後は特に、ワクチンや治療薬などの医薬品に関わる国境を超えての正確な情報の共有と迅速な供給体制の確立がさらに重要になり、薬学関係者は重責を担っている。状況の一般社会への発信も必須である。

本シンポジウムでは、異なる立場からこの難局に立ち向かってきた薬学関係者のリーダーにお話をうかがい、

このような中での国際協力のあり方についてもご意見をいただく予定である。

具体的には、薬学の国際組織である国際薬学連合(FIP)、医薬品医療機器の承認審査に関わる規制当局、医療従事者である薬剤師の組織、治療薬を供給している企業の方にお話をいただく予定である。

国際薬学連合は、新型コロナウイルス対策のガイダンスとして、正確な情報を迅速に人々に提供する活動を続けているが(<https://www.fip.org/coronavirus>)、広くは知られていない。

本シンポジウムをきっかけに、迅速で有効なCOVID-19対策が国際協力のもとに進むことを期待する。

(加藤大)

## 保険薬局における医薬品適正使用の実践

オーガナイザー

木戸宏幸(Chemist and Pharmacist)  
園部堯仁(北里大薬)

保険薬局の医薬品適正使用に向けた取り組みは、今後さらに質を高め、幅広く実践していくことが求められる。そのためには、個々の薬局が独立して取り組むだけでなく、地域の保険薬局全体での協力や、近隣の医療機関との連携がより重要になると考えられる。

本シンポジウムでは、既に実践されている地域独自の取り組みとして、地域における推奨医薬品集である「地域フォーミュラリー」を全国に先駆けて作成・運用している事例や、外来患者

の医薬品服用後の安全性確保を目的とした「薬業連携による副作用報告体制」を整備・運用している事例、在宅緩和ケア実践に当たったの当該地域における障害の明確化と「在宅連携モデル」運用による結果を検証した事例等を紹介する。

これにより、各地域における医薬品適正使用に関連したニーズの発見や改善のための取り組みの実践が推進されることを目的に、本シンポジウムを企画した。

また、薬学生に対する薬局の地域医療への参画に関する教育についても協議したい。

(園部堯仁)

## COVID-19対応における薬剤師の役割を考える

ー大学・病院・薬局の現場に向けて

オーガナイザー

塩田有史(愛知医大病院感染制御部/薬剤部)  
松元加奈(同志社女子大薬)

昨今、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックにおいて、大学、病院、調剤薬局などの教育や医療の現場での対応は多岐にわたっている。その中で薬剤師においても、医療現場では様々な役割を担い、他の医療従事者と共に患者を支えていくことが強く求められている。

しかし、未だ未知の部分が多いCOVID-19に対する対応は困難を極め

る事項が多々存在する。

そこで、COVID-19対応における薬剤師の役割の明確化に迫るため、本シンポジウムを企画した。病院、薬局、大学の感染対策および薬物治療について薬剤師、薬学部教員から最新のエビデンス、アウトカム、研究、教育(実務実習を含む)に触れながら解説する。

加えて、感染症領域に精通した医師からは、COVID-19の診断・治療・感染対策の全般について施設内でのマネジメントにも触れながら解説が行われる。

(塩田有史)

## 大学院生・学部生シンポジウム

### 次世代の若手研究者が切り開く 薬学研究の発展と医療への貢献

オーガナイザー

内田真美(松山大院薬)  
橋男(神戸学院大薬)

わが国の総人口に占める65歳以上の高齢者人口の割合(2020年)は28.9%と世界で最も高く、今後も上昇していくことが予想されている。超高齢化社会において、癌、循環器疾患、認知症およびうつ病などの患者数が増加しており、これらの中には病気の発症・進展の原因や薬物治療における問題点の解明が必要とされている疾患が存在する。

本シンポジウムは、認知症、うつ病

および疼痛などの病態解明や新規薬物治療の確立にフォーカスを当てた基礎研究、さらにドラッグリポジショニングの視点から、既存薬の新規効果(各種抗癌剤により誘発される副作用の予防および治療)の検証を目的とした臨床研究に取り組む若手研究者による研究発表にて構成している。

本シンポジウムが、将来の医療を担う学生や若手研究者たちの活発な意見交換の場となり、臨床現場における様々な問題点とその解決方法についての最新情報を共有し、患者さんの幸せに貢献できる機会を提供したい。

(内田真美)

地球の健康とすべての人々の健康で豊かな生活に貢献したい。それが私たちスズケンの壮大なテーマです。

スズケンの事業領域は、健康創造。医薬品流通業界のリーディングカンパニーとして医薬品・医療機器の供給をはじめ健康に関するあらゆる分野でお役に立てるプライム・ベンダーをめざしています。



Design Your Smile  
健康創造のスズケングループ